

会長の挨拶 18 職業の本質—その 5—

類似する類型は中世の職人に見出すことができる。金細工・建築・彫刻・刀鍛冶等々の職人技術は、一つの手工芸品に向けられた人間技術の錬磨を目的とする修業が前提となり、その修練の結果を特定の作品に客観化するものであるから、その精神力の錬磨は専門職業人のそれと寸毫も異ならないにもかかわらず、彼等が商品を製作するという事実から、専門職業に分類されないで職業に分類され専門職業より一段と低い身分が与えられたが、職業生活そのものが通常の商人の場合よりも、精神世界に近い位置を占めるという理由で比較的高い尊敬が与えられていた。しかし、この職人階級は中世社会から近代社会への怒濤のような機械文明の流れに適応性を欠き、その多くは滅亡してしまったので、現代社会においては往時の歴史的伝統を切断せられ、現代社会制度の中から自然発生的にできあがったところの芸術家又は専門技術家の階層に属することになったのである。この限りにおいて、この新興の専門技術家の階層は歴史的には専門職業と呼ばれないで職業と呼ばれているのであるが、しかし学校教育の目的などでは専門職業という分類で呼ばれているのは、この中世以来伝統的な職業の二分類法がもはや現代において、そのままの形で維持できないということを物語っているのである。

(小堀憲助著 『ロータリー思想の理論構造』より引用)